

の附帯作業を行う必要があり、負担が大きい。

また、飼料輸送ではこの50年間にわたり、バルク車等の特殊車両が使用されており、対応可能な事業者が限られているとともに、輸送の汎用性が乏しいため、運送業者の輸送計画に制限をかけている。

(2) 改善の方向性の考え方

上記のような課題に対応するために、本検討会では、①現状の業務をより効率的に行い、人手の確保、運賃上昇率の抑制につなげる方策（効率化）及び、②飼料輸送業務を誰でもできる仕事に変え、今後も人員を継続的に確保する方策（標準化）を検討した。

3 飼料流通の改善の方向性

(1) 飼料流通の効率化

① リードタイム（商品発注から納品までに要する時間）の確保

(ア) リードタイムの確保が輸送コスト及び製造コストの削減につながることを関係者の理解醸成を図ることが重要である。
また、発注期限の遵守や幅を持った納品期限の設定の有効性についても周知していく必要がある。そのため、農林水産省において、他業種のリードタイムの確保の取組やその周知方法に関する調査事業を実施する。その結果を踏まえて、配合飼料メーカー、卸売業者、運送業者、生産者など業界が一体となった取組を検討する。

(イ) 家畜の飼養頭羽数や配送頻度以上に飼料タンク容量に余裕を持たせる事や、複数タンクを設置することは、リードタイムの確保に直接的に寄与するとともに、飼料運搬車の積載率を向上させ、一層の効率的な輸送につながるため、配合飼料メーカーや生産者を中心に引き続き検討すべきである。併せて飼料の保存性の向上に関する技術開発を進めることが望ましい。

(ウ) 飼料輸送は、特殊車両を用いており、積載量にも限度がある。このため、飼料運搬車の積載率を高め、効率的な輸送を行うためには、注文量に対して幅を持った納品量が許容されるよう、関係者間で相互理解の下に機運を醸成する取組を進めるべきである。

② 正確な飼料の需要把握と効率的な配送計画

(ア) 飼料タンクに取り付ける超音波センサーやタンク重量を測定する機器等のIoTの導入により、個々の飼料タンク内の在庫をより正確に把握し、適正な発注につなげられるよう、配合飼料メーカ